

[図画工作・美術]

資質・能力を系統的にはぐくみ学ぶ喜びを実感できる授業をつくる

— 学びを生活や社会に生かし豊かに生きる生徒の育成を目指した題材づくり —

鰐淵紀美子*

1 はじめに

平成28年12月に示された、中央教育審議会学習指導要領の改善及び必要な方策などについて(答申)では、「感性や想像力などを働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞したりするなどの資質・能力を、相互に関連させながら育成する」ことが重要とされ、「生涯にわたって美術に親しみ、生活や社会に生かしたり豊かにしたりする態度」の一層の育成が課題としてあげられた。これは、社会の変化に主体的に向き合う中で出会う対象のそれぞれのよさを生かし、互いに納得のいく生活や社会を創り出す実践的な力が求められていると解釈することができる。この課題の背景として、授業の中で感性を働かせて思考・判断し、創意工夫をしながら表現したり作品を鑑賞したりするという一連のプロセスを働かせる力の育成が不足していることがあげられている。豊かな感性や情操を育てるために、よさや美しさを豊かに感じる事、自分の思いや考えを生かしてよいもの・美しいものをつくりだすこと、その喜びを実感的に味わうことなどを重視し、育成する資質や能力と内容の関係を明確にして題材を系統的に配列することが改善の方向性として示されている。

これまでも当校美術科では、表現・鑑賞活動を通して美術に対する感性を育て、豊かな情操を養うことを求め、題材の開発や配列を工夫してきた。感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てることを重視して、自分の思いを語り合ったり、それぞれが価値意識をもって批評し合ったりするなど造形的な見方・考え方を働かせて、自分なりの意味や価値をつくりだしていく交流の場を、導入時の鑑賞や表現の構想段階に意識的に位置付けてきた。

本研究では、答申が示した課題を受けて、これまで重視してきた言語活動を含め、育成する資質・能力との関係性を授業の中で明確に位置付け、美術科の学びの系統性の中で、学びが育成されていく状況を明らかにしていく。題材終末時に資質・能力の育成に関連させて生徒自身が省察する中で、何ができるようになったか実感し、美術科の学びに新しい価値を発見したり自分なりに意味をもったりする姿を目指して、題材を展開する中で必要な学びの場とは何かを探る。

3つの題材について、設定したはぐくみたい資質・能力と関連させて授業を展開する。資質・能力が系統的にはぐくまれることを、題材終末に行う生徒の学びの様子や省察等から検証する。

2 研究の方法

(1) 3つの題材の配列

中学1年生から2年生の後期までに行った3つの題材を通して検証する。3つの題材は、表の網掛け部である。

	4月～6月	7月～9月	10月・11月	12月・1月	2月・3月
1年	色相環をつくろう ～カラーデータ収集～	見て感じて、描く ～対象を鉛筆でとらえる～	見る熟語 ～文字の意味を色や形に置き換えよう～	スーパーリアル ～私が感じた美味しさは～	文様、飾りの小宇宙 ～繋がる文様、広がる文様～
2年	DECO・DECO・自分史 ～一番近くて遠い自分～	附中生を振り向かせる！ ～ピクトグラムを開発しよう～	自然物の美しさ ～葉脈や動物の毛並みに着目して～	私たちの住む街は ～切り絵で表そう～	ジオデシックドーム ～幾何学的な構造の美～
3年	THE・附属長岡中 プロモーションビデオ	空・そら・七変化 ～色と心の間を探る～	谷川俊太郎 詩の世界 ～言葉を色と形に～	影を楽しむ照明 ～支持体を工夫して～	篆刻 ～自分を表す印をつくる～

(2) 求める学びとはぐくみたい資質・能力

本研究では、次頁①のような子供の姿を求め、次頁の②のように3つの視点で資質・能力を設定した。さらに③では、学ばせたい教科の本質を「自らの感性を生かした発想力」と「創造的な技能」ととらえ、美術科ではぐくまれた資質・

*新潟大学教育学部附属長岡中学校

能力がどのように教科を横断し、さらに生活や社会で汎用的に働くか示す。

① 求める学び

自分が表したいことを明確にもち、意見交換を通して互いの表現に新しい価値を認め、試行錯誤することで新しい表現を創り出す喜びを実感する子供

② 美術科ではぐくみたい3つの資質・能力と資質・能力が働く姿

	知識や技能、思考・判断・表現力 認知的資質・能力	他とかかわり協働する力 社会的資質・能力	自らの学びを推進し、省察する力 実践的資質・能力
資質・能力	創造的な技能で表現する力 論理的思考力・先を見通す力・伝える力	互いの思いのよさを受容する力 敬意・共感的態度・協働する力	試行・探究を続ける力 粘り強さ・探究心・省察的態度
資質・能力が働く姿	材料やできごととの出会いからよさや可能性を見だし、自分の思いを確かにしたたり表現したりする。	意見交流を通して互いの考えのよさや価値を認め合う。	自分の思いや願いが伝わるように試行・探究し、造形的な意味や価値を創り出す喜びを実感する。

③ 教科を横断し、生活や社会で働くことをねらう汎用的な資質・能力

	自らの感性を生かした発想力 創造的な技能（表現方法を創り出す力）		
資質・能力が汎用的に働く姿	認知的資質・能力	社会的資質・能力	実践的資質・能力
	生活や社会との豊かなかかわりから発想を得て、ものや出来事からよさや可能性を見だし、自分が感じたことを表現したりする。	社会や仲間との意見交流を通して、互いの考えを認めたり批評したりしながら、思いや考えのよさや価値、本質を見いだす。	自分の思いや願いが伝わるように試行・探究を続け、様々な方法で表現し、意味や価値を創り出す喜びを実感する。

(3) 3つの題材の概要とその価値

① 中学1年生 題材名「見て感じて、描く～対象を鉛筆でとらえる～」

モチーフを自分の内履き1足とし、B4判スケッチブックに3Bの素描用鉛筆と消しゴムを用いて制作した。(図1)

発達段階における描画表現の特性を生徒に解説し、自分が成長のどの段階にいてどのような描画方法を確立しようとしているのか、表現することを通して自己の表現の特徴や方向性について考えさせた。これから3年間美術を学ぶ上で、自分が「表したいもの」とは何かを見付ける手掛かりになると考えて題材をこの時期に配列した。1年生に求められる「対象を観察して感じた雰囲気をとらえて描く」力の育成もねらった。

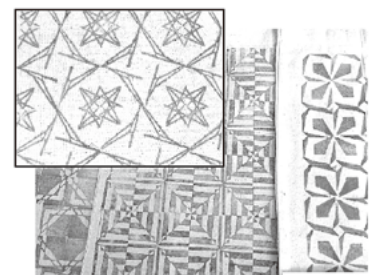


(図1) 生徒作品「私の靴」

② 中学1年生 題材名「文様、飾りの小宇宙～繋がる文様、広がる文様～」

3cm×3cmの彫刻用ゴムの1つの面に文様をデザインし、スタンプを制作する。自分が使う「美術カバン」を飾る文様をつくった。(図2)

中心から八方向に繋がった文様ができるように、デザインを考えさせた。マウリッツ・エッシャーの連続文様作品や日本の伝統的な文様、海外のファブリックデザインを鑑賞し、文様の発想をさせた。1年生数学単元「平面図形」で線対称・点対象の文様について学習するため、同時期に題材を配列した。世界中に文様で飾る伝統的な文化があることを知り、自分が使うカバンに自分が気に入る文様を施すことになる本題材は、他者評価を常に受けたり、自分が創作したもので暮らしを飾ったりするデザイン分野の導入としての位置付けも果たしている。



(図2) 生徒作品「文様スタンプ」

③ 中学2年生 題材名「私たちの住む街は～切り絵で表そう～」

当校は2学年の2月に、修学旅行で沖縄に行く。行程の中に民泊体験があり、亜熱帯の自然を感じながら沖縄の暮らしを味わうことができる。お世話になる民泊先の方に、事前に自己紹介カードを送る。そのカードに雪国である長岡ならではの文化や食などを伝えるための切り絵作品を制作した。(図3)

マンホールや郵便消印のデザインを鑑賞した後、複数の長岡を表すイラストや文字を円の中に配置する。その下絵の線の太さを調整し、切り絵をつくる。切り絵の裏に障子紙を貼り、沖縄の伝統美術「紅型」の色合いを模倣して、染料を水で溶いた色水で着色する。沖縄の文化を味わいながら、郷土の自然や文化の愛着が増すことをねらった。



(図3) 生徒作品「長岡の切り絵」

(4) 3つの題材で特に表出をねらう資質・能力と想定する資質・能力が働く姿

3つの題材を通して、以下の表のように具体的に表出をねらう9つの資質・能力を設定して題材計画を立てた。

中学1年生 題材名 「見て感じて、描く～対象を鉛筆でとらえる～」 認知的資質・能力「伝える力」 自分が半年間使用してきた経験（感触や履き心地など）から内履きの雰囲気が伝わるように、陰影のタッチや濃淡を選んで鉛筆で表現する。	社会的資質・能力「敬意」 仲間の作品を鑑賞し（中間時・終末時）、伝えたいことに合せた表現の違いや互いの感性による雰囲気の違いを見付け、味わう。	実践的資質・能力「粘り強さ」 自分の思いを表現方法の選択により伝えることができることを理解し、自分の感性を生かして今後も制作していこうと願う気持ちを明らかにする。
中学1年生 題材名 「文様、飾りの小宇宙～繋がる文様、広がる文様～」 認知的資質・能力「論理的思考力」 消しゴムスタンプ1つを中心として8方向に文様が繋がる形を、試行錯誤を繰り返しながら創り出す。	社会的資質・能力「共感的態度」 互いのアイデアを見比べ、自分と他者との考え方の類似点・相違点を見付け、それぞれの価値を認め合う。	実践的資質・能力「探究心」 自分のデザイン（アイデア）が実現するために、材料や道具の性質を理解して文様を彫り出す。文様が美しく表れるように色を吟味する。
中学2年生 題材名 「私たちの住む街は～切り絵で表そう～」 認知的資質・能力「先を見通す力」 参考作品をヒントに自分が伝えたい地域のよさを考え、制作の条件に合うように配置や手順などを計画する。	社会的資質・能力「協働する力」 沖縄の自然や暮らしとの違いや互いのイメージの違いを視点にして、新しいデザインになるよう意見交換をする。	実践的資質・能力「省察的態度」 自分の住む街のよさや特色を伝えるために、どのように試行・探究したか振り返り、自分が造形的な意味や価値を創り出していることを実感する。

3 実践

(1) 実践1 第1学年1組（40名・平成28年度で実施）

① 題材計画（全4時間）

次（時数）	○学習課題（◎は中心となる課題）と・子供の学びの姿	□=特に表出をねらう資質・能力
1次 (1)	・3B鉛筆と消しゴムで様々な表現（濃淡・タッチなど）ができることを知り、「濃淡スケール」（図4）をスケッチブックに作成する。 ○光の当たり方や陰影を観察し、描きたい靴の配置を考えよう。 ・靴の大まかな形を、スケッチブックの画面の中の配置を考えて描く。	論理的思考力 伝える力
2次 (1)	○靴の様々な部品やそれぞれの質感が表れるように、描き方を工夫しよう。 ・靴の細かい部品や縫い目などを見付けながら、細部まで形を追究する。 ・ハッチングや消しゴムの使い方を試しながら、質感の違いを描き表す。	探究心 伝える力
3次 (1)	◎光の当たり方や陰影を、「濃淡スケール」を参考に描き表そう。 ・班の仲間の作品から表現の工夫を見付け、自分の課題を見つける。 ・見えたものを鉛筆の濃淡だけで描き表すために、タッチや筆圧を工夫する。 ・靴のどの部分をどんな濃さにすればよいか、決定していく。	敬意 粘り強さ・探究心 伝える力
4次 (1)	○これまでの取組を自己評価し、新たな課題を見つけて仕上げよう。 ・仲間の表現のよさを認め合いながら、自分の作品のよさを感じる。 ・班の仲間の作品から表現の工夫を見付け、自分の表現を振り返る。	敬意・共感的態度 省察的態度

② 資質・能力の表出をねらうための指導の手立て

ア 伝える力（論理的資質・能力）

・靴の置き方と光による陰影の状況を観察し、表情の変化をとらえて描きたい構図を決める時間を導入時に位置付ける。

イ 敬意（社会的資質・能力）

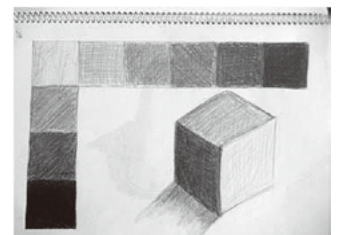
・同じモチーフと画材でも、それぞれの感性の違いや陰影のとらえ方により様々な表現が生まれることを理解し、互いのよさを認め合う鑑賞の場を3次の初めと4次の振り返り時の2回設定する。

ウ 粘り強さ（実践的資質・能力）

・仲間の制作の様子や表現の工夫、1次で作成した「濃淡スケール」やタッチの違いが活用できているか、自分の表現を見直させて課題を明確にし、仕上げに向かわせる。

③ 授業の実際と資質・能力の表出の様子

学習課題の1つ目を「光の向きを考えて陰影にチャレンジしよう」とした。生徒は、靴の形が写実的にとらえられるかどうかではなくて、その先にある陰影を1次で作成した「濃淡スケール」を活用して表すために形を描く必要がある



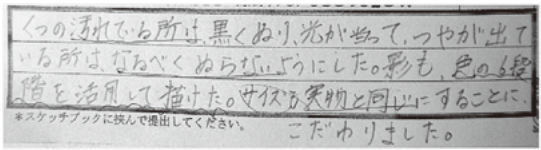
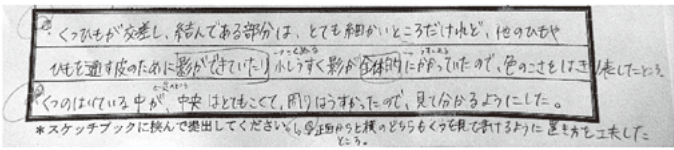
(図4) 「濃淡スケール」

と課題を理解した。これにより生徒は、造形的な見方・考え方を働かせて陰影のでき方を観察し、雰囲気を確認しながら、描きたいと思える靴の置き方を探すことができ、認知的資質・能力「伝える力」が発揮された。

2つ目の学習課題を「靴の部品の質感を鉛筆のタッチで表そう」とした。靴は、靴底や紐など質感の違う様々な部品で構成されているため、縫い目や光沢、布の織模様などを鉛筆で描き表したりタッチの違いで丈夫さを表したり、個性的な工夫が見られた。そこで、3次の初めにこれらの工夫を鑑賞し合う場を設定した。描き表すことは生徒にとって大きな課題であるため、それを克服するために行った仲間の工夫はどれもよく考えられているものと生徒たちの目に映った。互いの工夫に敬意をもって鑑賞しながら、自分の感性に合う表現方法を取り入れ実践してみようという新たな課題を見いだすことができた。これは、社会的資質・能力「敬意」「共感的態度」と実践的資質・能力「粘り強さ」の表出と言える。

個別の課題を明確にもった生徒たちは、最後まで時間を惜しむように制作に励んだ。この時に表出している「伝える力」「探究心」は、中間時の相互鑑賞時に表出した「共感的態度」により関連して表出した資質・能力である。交流活動を構想段階から表現活動の序盤に設定することは、様々な資質・能力をはぐくむのに有効であった。

4次の初めに自分の作品と制作過程を自己評価させた。それにより、3次と同様な一連の資質・能力の表出があり、仕上げに必要な新たな課題をもって完成に至ることができた。生徒の振り返りから資質・能力の表出が認められた記述の一例を以下に示す。

<p>認知的資質・能力「伝える力」</p>  <p>観察により見えてきた表現したいことに合わせて、光の表現の工夫をしたり陰影の濃度を決めたりしている。主題を見付け、表現方法を創り出していたと言える。</p>	<p>実践的資質・能力「粘り強さ」</p>  <p>交流活動を行ったため、靴の様々な部品や陰影の現れ方との関係まで観察が及んでいる。自分なりの課題をもち、最後まで目的をもって制作することができた。達成感を味わっている様子も伝わる。</p>
--	---

(2) 実践2 第1学年1組 (40名・平成28年度で実施)

① 題材計画 (全6時間)

次(時数)	○学習課題(◎は中心となる課題)と・子供の学びの姿	□=特に表出をねらう資質・能力
1次 (1)	○エッシャーの連続文様や日本や世界の伝統的な文様を鑑賞しよう。 ・文様には意味や願いが込められていることを知り、文様のよさを味わう。 ・文様の作り方をイメージする。	論理的思考力・敬意 探究心
2次 (1)	◎自分の美術バッグのデザインとしての文様のアイデアを考えよう。 ・上下左右の繋がりをイメージし、試行錯誤しながら方眼紙に描く。 ・仲間と構想している文様の工夫を伝え合い、よりよい文様を創り出す。	探究心 共感的態度・協働する力
3次 (1)	○構想したデザインが成功するように文様を彫り出そう。 ・制作の手順やカッターの使い方を工夫して彫る。 ・構想通りに彫れているか、試し押しをして表現を確認する。	探究心 粘り強さ
4次 (1)	○文様に込めた思いに合わせて色や配置を考えてバッグを飾ろう。 ・スタンプの色を選び、配置や配色を考えて文様を仕上げる。 ・自分が構想した文様ができるまでに考えたことを仲間と伝え合う。	探究心 共感的態度・省察的態度

② 資質・能力の表出をねらうための指導の手立て

ア 論理的思考力(認知的資質・能力)

- ・文様のよさや価値を知るため、導入時に様々な文様の鑑賞をする。文様の意味や込められている思いを知り、繋がっているデザインの仕組みを理解させる。

イ 共感的態度(社会的資質・能力)

- ・文様に込めた思いがデザインに反映されている工夫を見つけ合い、自他のアイデアのよさを共感し合う場を構想段階の後半に設定する。

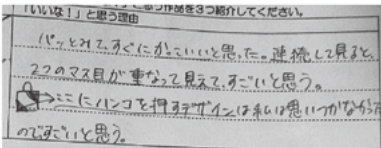
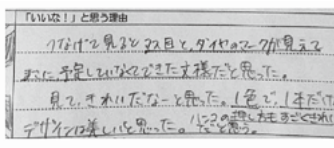
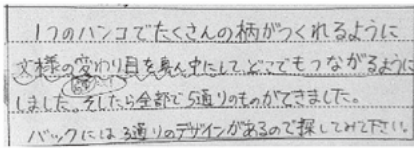
ウ 探究心(実践的資質・能力)

- ・2次では方眼紙、3次ではカッター置き場、4次ではスタンプ台を、類似デザイン(文様の繋がり方)や同系色ごとに道具置き場や作業台を設置する。同系で集まった仲間同士による自然な交流により、自分が文様に込めた思いにより作品がつけられる価値や他者との違いによるデザインの豊かさを実感させる。

③ 授業の実際と資質・能力の表出の様子

題材の導入で参考作品の鑑賞を行い、表現方法と制作行程のイメージをもたせている。導入時に制作に関するおおよその流れを理解することで、生徒は何をつくりたいか主題をもって構想することができた。1次では数学単元「平面図形」での既習事項を生かして働く認知的資質・能力「論理的思考力」の表出をねらった。デザインが確定し制作を始める2次では、実践的資質・能力「探究心」が表出すると想定して、構想を練り上げるための交流が生まれるための仕組みを取り入れた。実践1でも表出したように、デザインを実現させたいという強い願いにより表出される「探究心」は、社会的資質・能力「共感的態度」「協働する力」が加わることで表出しやすい。それをねらい、美術室の道具の配置を手立てウのように設定し、「共感的態度」が自然に表出するようにした。

生徒の振り返りと鑑賞シートから資質・能力の表出が認められた記述の一例を以下に示す。

<p>認知的資質・能力「論理的思考力」</p>  <p>「連続して見る」ことで他者の文様の発想のよさをとらえている。「かっこいい」「マス目が重なって見える」という新しいよさに気づいている。</p>	<p>社会的資質・能力「共感的態度」</p>  <p>八方に文様が繋がって初めて現れる文様の面白さに共感している。美術の本質である「美しさ」をとらえた記述も見られる。</p>	<p>認知的資質・能力「探究心」</p>  <p>八方に文様が繋がることを意識してデザインを考えたことが成功し、喜んでいる。「そしたら（結果的に）」新しい文様生まれ、探究する楽しさを感じている。</p>
---	--	--

(3) 実践3 第2学年1組 (40名・平成29年度で実施)

① 題材計画 (全6時間)

次 (時数)	○学習課題 (◎は中心となる課題) と・子供の学びの姿	□=特に表出をねらう資質・能力
1次 (1)	○郵便消印やマンホールのデザインを鑑賞し、自分の街の自然や文化を表すデザインを考えよう。 ・長岡のよさや特色を仲間と話し合いながら図柄を構想する。	伝える力 協働する力
2次 (3)	◎円の中に文字や絵を効果的に配置して、切り絵をつくろう。 ・上下左右の繋がりをイメージし、試行錯誤しながら方眼紙に描く。 ・仲間と構想している文様の工夫を伝え合い、よりよい文様を創り出す。	先を見通す力 協働する力
3次 (1)	○沖縄の伝統芸術「紅型」の手法を真似して着彩しよう。 ・グラデーションの色合いを楽しみながら着彩する。	先を見通す力 協働する力・敬意
4次 (1)	○自分が住む街のよさや特色を伝えるために工夫したことを振り返ろう。 ・デザインや切り絵の線の太さ、色の選択など様々な制作行程を振り返り、それぞれの工夫にどのような思いを込めたか分析をする。	共感的態度 省察的態度

② 資質・能力の表出をねらうための指導の手立て

ア 先を見通す力 (認知的資質・能力)

- ・参考作品を鑑賞しながら様々な行程があることを見通させ、自分がつくりたいものを計画的に手順よく制作することで思いが実現することを予測させる。

イ 協働する力 (社会的資質・能力)

- ・構想したデザインが実現するために、カッターなどの道具の使い方や切り絵となる線の太さなど、制作しながら気づいたことを意見交換できるようグループ編成する。

ウ 省察的態度 (実践的資質・能力)

- ・思いの実現のために進めてきた制作を振り返り、見通しをもって制作できたか振り返る場を設定する。デザインと線の太さ色の濃淡など、自分なりに根拠をもって決定していくことが創作のよさや価値であることを実感させる。



(図5) 生徒作品

③ 授業の実際と資質・能力の表出の様子

2つ目の題材同様、1次「題材との出会い」として参考作品の鑑賞を行い、表したいことの主題を生み出させる。本題材で重要な点が2つある。1つ目は、長岡と沖縄の自然や文化の違いを自分なりにとらえ、長岡という風土の特徴をよい印象として相手に伝わるように図柄を構想することである。相手意識をもって「伝える力」を發揮させながら、本当に伝わるだろうかと常に仲間との「協働する力」を働かせながら試行錯誤を進めることができた。2つ目は、図柄の構想、切り絵、着彩の工程を見通すことである。資質・能力「先を見通す力」と「協働する力」の表出をねらい、これ

までの題材を配列した。自分らしさを発揮しながら表現方法を工夫しながら追究するためには、カッターを中心とした切り絵に必要な材料や用具の扱い、グラデーションがもたらす色の効果の知識など、これまでの既習事項が十分に生かし見通しがもてる状況にして本題材に取り組んだ。前頁（図5）の作品を制作した生徒のプレゼンテーションシートから資質・能力の表出が認められる状況を以下に示す。

<p>この作品は、長岡の雪景色の美しさを伝えるためにデザインしました。雪は、雪害や交通渋滞などつらいことも起こしますが、音もなく降り続ける様子や、止んだ後の晴れて輝く景色はとてもきれいです(a)。その様子が伝わるように、雪の結晶を長岡花火に見立て、信濃川と長生橋と雪の結晶を描き、青～緑色のグラデーションで情景を表しました(b)。長岡の美しい景色を想像してもらえたら嬉しいです(c)。</p>	<p>(a)「協働する力」雪の辛さを伝えたい正直な気持ちを持ちながら、沖縄との相違点として雪の美しさをとらえていることが伺える。</p> <p>(b)「先を見通す力」紅型の表現を使うため、雪の青と長生橋の緑を生かそうと見通していることが伺える。</p> <p>(c)「省察的態度」自分が美しいと感じたこと（主題）が相手に伝わることを期待している。</p>
--	---

4 成果と課題

本研究では、資質・能力を系統的にはぐくみ学ぶ喜びを実感できる生徒を育成するため、表出させたい資質・能力を明らかにして、手立てや題材配列について子供の省察を通して検証した。3つの題材を通して言えることは、子供が題材導入時に、明確な主題をもつことができたことである。主題が明確だったから、題材終了時に創り出す喜びを実感することができた。これは、9つの資質・能力の表出をねらって題材を計画したことに強く関係していると次のように考える。

例えば教師が、認知的資質・能力の表出をねらって題材を計画すると、生徒は、生活経験や既習事項など自分の感性を頼りに自己を生かそうとする。教師が社会的資質・能力の表出をねらうと、生徒は他者意識をもって構想を練ろうとする。実践的資質・能力の表出をねらえば、生徒は生活や社会に役立つ美術の在り方について考えることを通して、自分の発想を役立てようと願う。このように生徒は、自然な意識の中で必要感をもって主題をもつことができるのである。

9つの資質・能力が関連し合うことで、表出が予測できる資質・能力も見えてきた。表出に有効な手立てと共に整理すると次のことが言える。既習事項や生活経験、それぞれの感性を生かす認知的資質・能力の表出を関連させてねらうならば、生徒の個人の意見が自由に交換しやすいようにグループ編成や材料・道具の配置の手立てを工夫するとよい。社会的資質・能力は、試行から表現へ移り変わるときに、交流の場を設定するなどの手立てにより確実な表出をねらうことができる。美術の本質的な学びのよさや喜びを実感し、次の造形活動に生きる実践的資質・能力の表出を関連させてねらうならば、可塑性の高い材料で、自分の発想が試行錯誤することにより生きてくる題材を選び、他者とのかかわりの前後に構想の見直しを行う場を設定する手立てが有効である。

題材の内容によって表出しやすい資質・能力がある。表出させたい資質・能力をねらって年間の題材を配列し、中学校3年間で、教科で設定した資質・能力を繰り返し表出させることができれば、美術科の学びにより汎用的な資質・能力を育成することができると言えるだろう。系統的に3年間の題材配列を計画することの重要性を改めて実感している。

美術科で育成できる資質・能力には、よりよいものを創り出すために、自分の価値判断を大切に「批評」や、他者の意見を受け入れる「許容」も必要だと考える。また、異なった様々な意見を自分の思いと照らし合わせ、納得できる考えとして形を変える力も、「互いの思いのよさを受容する力」として、題材を通してはぐくんでいきたい。題材が実際の生活や社会の一片になるとよい。よりリアリティのある題材を開発していくことが求められていると考える。

5 おわりに

新学習指導要領は、「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する」ことを目標として掲げている。本研究で扱った題材では、資質・能力の表出をねらって手立てを講じることで、自分の感性をもとにして発想し、構想を実現するために試行錯誤を繰り返し、自分なりの工夫ができたことを表現の価値としてとらえ、他者との違いを自分のよさとして実感することができた。それぞれが培っている感性を生かして創り出すことが、未来を拓く原動力になることを、生活や社会・美術文化と関連した題材においても生徒自身が実感できるような授業づくりをこれからも目指す。

引用参考文献

中央教育審議会 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」、文部科学省ホームページ、2016.12.21, p167